

筑波医療科学

Tsukuba Journal of Medical Science

On-Line Journal

URL <http://www.md.tsukuba.ac.jp/public/cnmt/Medtec/journal.htm>

TJMS 2007; 4(1):1-8



筑波医療科学 第4巻 第1号

Tsukuba Journal of Medical Science Volume 4, Issue 1 (2007, May 1)

【目次】

- 【特別寄稿】「桐技会」会報 No.1 1
中川智貴
- 【MedSci Forum】1期生の卒業を祝して—学位記授与式学類長式辞.....
2-3
浦山 修
- 【MedSci Forum】医療科学類新入生を迎えて—平成19年度入学式学類長式辞..... 4-5
浦山 修
- 【MedSci Forum】卒業に際して思うこと6-7
第1期生
- 【編集後記】.....8

【表紙のことば】

医療科学類同窓会「桐技会」設立総会

【特別寄稿】桐技会 会報 No.1

中 川 智 貴（筑波大学 医療科学類同窓会 『桐技会』 会長）

桜の時期も終わり、新緑の美しい時期になってきました。

私達、筑波大学医療科学類一期生はそれぞれ新たな方向へと歩み出し、その生活にも少し慣れ、新たな地で楽しみを感じ始めた頃でしょうか。それぞれが歩み出した方向で皆さんのご健勝をお祈りいたします。

さて、桐技会が創立して約1ヶ月が経ちました。この時期に同窓会の会報第一号を出すことができる事を心より嬉しく思っています。これも同窓生、また学生役員を含め同窓会執行委員の協力があつてこそ実現できたことと考えています。この場を借りて感謝いたします。

桐技会は、動き始めてまだ1ヶ月です。まだまだ改善すべき点が多々あります。至らぬ点があるかと思いますが、どうか暖かい目で見守っていただけると幸いです。

医療科学類はまだ5年目ということもあり、こちらに関しても多々改善すべき点があります。これらを出来るだけ改善し、活気・魅力・伝統あるよりよい学類となるよう同窓会としても働きかけていきたいと思っています。これに伴って皆さんにお声掛けすることがあるかと思いません。お忙しいとは思いますが、その際にはご協力お願いいたします。

同窓会に対して何かご要望がある際には、気軽にご連絡下さい。

皆さんの新たな地での活躍を心よりお祈り申し上げます。

平成19年4月24日

【MedSci Forum】 1期生学位記授与式学類長式辞（卒業生に贈る言葉）

浦山 修（看護・医療科学類長）

一期生の卒業を祝う

看護・医療科学類長 浦山 修

本日、医学専門学群看護・医療科学類医療科学専攻を卒業していく40名の皆さん、卒業おめでとうございます。保護者の方々にも、心よりお祝いを申し上げます。

皆さんは、一期生として、この学び舎を巣立っていきます。その学び舎ですが、新校舎建設の計画は財政上の問題で頓挫、また年次進行とともにカリキュラムが出来上がっていくという、皆さんは、決して恵まれたとはいえない環境の中での勉学を余儀なくされましたが、今日、ここに、卒業の晴れの日を迎えることができました。皆さんの、これまでの頑張りに、まず敬意を表します。

看護・医療科学類は、来年度からは看護学類と医療科学類とに分かれて、再出発します。コメディカルという括りよりは、それぞれの学問と教育体系に基づいた人材育成を図ろうという、コンセプトからであります。このいわゆる保健学科の解体と新たな高度医療専門職の養成課程である医療科学類の設置は、全国初の試みで、全国の人々が筑波、その一期生である皆さんの今後の進むべき道に、注目しています。皆さんは、我われとともに教育改革の先頭に立っていることを認識してください。

「先頭に立つ」ということはどういう意味なのか、医学のある先達の例を紹介しながら、お話したいと思います。

皆さんは『蘭学事始』という本を読んだことがありますか。福井・小浜藩の侍医であった杉田玄白が1815年に、その40年前に仲間とともに取り組んだオランダの解剖書『ターヘル・アナトミア』の翻訳の苦労や思い出を綴ったものです。1771年3月4日、杉田玄白、中川淳庵、前野良沢の3人は、現在の東京荒川区の

小塚原の仕置き場において人体解剖を見学し、その場に持参した『ターヘル・アナトミア』の図の正確さ(すなわち西洋医学の進歩)にたいへん驚き、その翻訳を思い立ったのでありました。玄白はアルファベット25字さえ知らず、わずかに良沢が長崎から持ち帰った簡単な辞書をたよりに、作業を開始したのですが、「誠に櫓舵なき船の大海に乗り出せしが如く」で、翻訳は遅々として進みませんでした。それでも「フルヘッフェンド」を鼻中隔の盛り上がった様子と想像し「鼻柱(はなばしら)」と訳した時の、彼らの喜びはたとえるものがなかったそうです。このようにして訳語の数も次第に増え、3年後に完訳しました。かれらの一大事業、『解体新書』の発刊は、18～19世紀の日本社会の中に蘭学が定着する契機となり、当時の医学の地位向上にたいへんな貢献となりました。

1869年に『蘭学事始』の出版を斡旋した福沢諭吉は、かれらの業績を「一学創始」(単なる翻訳ではあるが一つの学問を打ち立てたに等しい)と言って絶賛しました。

彼らが「先頭に立つ」ことができたのはなぜでしょうか。小塚原ではそれまでも人体解剖(腑分け)は何回も行われていたそうですが、玄白たちの熱心さは腑分けの老人を驚かせたそうです。“革新的なもの”は解剖にあったわけではなく、それをまさに見学した“彼らの目”にあったということができます。

皆さんは卒業後、大学院への進学あるいは病院や企業への就職など、それぞれの道を歩み始めようとしています。医療科学がこれから発展・展開する領域には、一生を捧げるだけの価値のある仕事がたくさんあります。「一学創始」の気概あるいは大きな志をもって、仕事に取り組み、自らを高め、豊かな人生を送ってください。実は、先ほど紹介したオランダ語「フルヘッフェンド」は、『ターヘル・アナトミア』のオリジナルはドイツ語で書かれているのです

が)ドイツ語の「ヘルヘツフェン(verheffen)」に
当たり、鼻中隔の盛り上がりと言うのではなく、
本当は「自らを高める」という意味であります。

皆さんの未来に、幸多きことを祈って、これ
を“はなむけ”の言葉とします。

本日は、誠におめでとうございました。

(平成19年3月23日)

【MedSci Forum】 医療科学類新入生を迎えて（平成19年度入学式式辞）

浦山 修（医療科学類長）

平成19年度入学式式辞

医療科学類長 浦山 修

学類長を務めます、浦山です。まず、一年生の39名、3年次編入生3名の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんを迎えて“医療科学”は163名となりました。

皆さんは、晴れて昨日から大学生となりましたが、初めに、大学が長い歴史の中で、社会から負託された教育の使命について簡単に説明します。今、それを学生の皆さんと私たち教員のそれぞれの立場で考えてみます。まず、私たち教員は、皆さんの一人ひとりの個性を尊重して、知識と技術を教授します。次に、学生である皆さんは、大学生活を送る中で己の人格形成を図り、知識と技術を学び、自らの能力の開発に努めなければなりません。この教員と学生の共同作業によって、皆さんは「知（intelligence）」を獲得することになります。「intelligence」とは何かというと、単に見て聞いて知っているということではなく、ものごとの因果関係やその社会的意味を理解することです。そのような知の力をもって、大学は社会貢献を果たしていくことになります。

筑波大学の話に移りましょう。2002年10月に、医療・保健・福祉に係わる社会的な要請に応えるために、基本的な臨床能力を身に付けたコメディカルの学士を育成しようと、看護・医療科学類が設置されました。2003年4月に医療科学主専攻には一回生36名が入学、4年間の修業を終えて、今年3月に卒業していきました。一年生の皆さんは、今年度看護・医療科学類が改組し新しく発足した医療科学類の一期生ですが、医療科学主専攻から数えると5回生、3年次編入生の皆さんは3回生となります。なぜ学類改組を行ったかについては、学類案内等をご覧ください。医療科学類となって

も、教育の基本的なコンセプト（皆さんにどんな人材に育てて欲しいのか）は同じであります。先ほどの大学教育の使命に照らし合わせてみますと、皆さんは、つくばの地で、医療人としての使命感と責任感を養い、医科学の基礎的知識と技術を学びながら自らを高め、将来への道、すなわち医科学という学問を追求する道、あるいは臨床検査や医療情報を中心に高度専門医療を追求する道などを選択することになります。

将来への道を具体的に説明しましょう。一回生（3年次編入生を加えて40名）の卒後の進路は次のようでした。進学した者が17名、その中で大学院修士課程に進んだ者が14名、その他の3名は細胞検査士養成学校等に進学しました。一方、就職した者は23名（厳密には未定3名を含みます）、そのうち病院の検査部に就職した者は15名、検査センターを含め企業に就職した者は5名です。特徴的なのは、他大学と比べて大学院進学者が多いことで（全体の35%）、かれらは同時に臨床検査技師の国試に合格しましたので、将来は医療の現場に戻って、診断・治療に必要な新たな技術開発とその実践などに関わることが期待されます。

私は、一回生の1年から3年までクラス担任を務めました。かれらに話してきたことは、一生の仕事を考えて、臨床検査技師の国家資格を得ることは一里塚に過ぎなく、社会と時代の要請に応えるためにもキャリア・アップを図って欲しい、大学院進学しかり、複数の資格取得しかり、また英語力を高めることも必要です。皆さんにも、自らを一層高めることを考えて欲しいと思います。

ところで、今日、ここに、こうして皆さんと出会いましたが、私はたまたま教師、皆さんはたまたま学生として出会っています。4年後を考えてみてください。卒業後皆さんの多くは医学・

医療の道へと進むでしょう。我われの仲間入りをするわけです。我われは、先達から引き継いだ学問・研究を、やがては皆さんに託して発展させてもらわなければなりません。我われは、入学試験を課して、皆さんを選びました。皆さんは学力の点でも人物の点でも選ばれた人たちです。大いに自信をもってください。

最後に、この筑波大学で、よく学びよく遊び、4年後には我われの素晴らしい仲間となることを期待して、ご挨拶いたします。

(07/04/10)

【編集後記】

二宮治彦（編集長）

医療科学主専攻の1期生がかねてより準備を積み重ねてきた同窓会組織「桐枝会」が発足した。【特別寄稿】には、桐枝会の中川智貴会長から「桐枝会」の会報 No.1 をお寄せいただきました。同窓会と学類はお互いに協力し合いながら発展していきたいと考えています。桐枝会会報として、今後も TJMS を活用いただけますように、お願いいたします。

【MedSci Forum ①】には、「卒業生に贈る言葉」として、学位記授与式における学類長式辞を掲載しました。学類長は、この式辞で、『ターヘル・アナトミア』の訳書「解体新書」の出版に關与した先人の業績を紹介しながら、アカデミズムの世界へまさに船出ししようとする皆さんを激励しておられます。「蘭学事始」（杉田玄白）は有名な著作ですが、なかなか手を出しにくい（現代語訳も出ていますが）ものです。『ターヘル・アナトミア』翻訳の中心的人物であった前野良沢と杉田玄白は、「解体新書」後、対比的な生涯を送ります。「冬の鷹」（吉村 昭）はこの翻訳作業と、関係した先人たちの生涯についての著作です。あわせて一読されることを、小生からお薦めいたします。

【MedSci Forum ②】には、「新入生への言葉」として、平成19年度新入生に対する学類長の式辞を掲載しました。人類が長年苦心して成し遂げてきた学問や業績を継承し発展させる場としての大学の意義を述べておられます。新入生や在学生の皆さん、学問へ敬意と愛情を抱きながら、大学生活を楽しんでください。

【MedSci Forum ③】には、「卒業に際して思うこと」を第1期生からお寄せいただきました。

筑波医療科学 第4巻 第1号	
編集	筑波医療科学 編集委員会 二宮治彦 有波忠雄
発行所	筑波大学 医学群 医療科学類 〒305-8575 茨城県つくば市天王台1-1-1
発行日	2007年 5月 1日

【MedSci Forum】 卒業に際して思うこと

第 1 期 生

『卒業に際して思うこと』

平成 19 年 3 月に医療科学主専攻の第一期生が卒業されました。そこで卒業生の皆さんに卒業に際して思うことを文章で寄せていただきました。

2003 年 4 月は私の人生にとって大きなターニングポイントでした。筑波大学医療科学主専攻に入学し、充実した大学生活のスタートを切ったからです。高い志を持った同級生や熱心にご指導下さった先生方に出会えたことは、私の貴重な財産です。医療科学類の更なる発展を卒業生として願っています。(200311684)

卒業に際してつくばを離れる寂しさはありますが、大学での友人とは例え卒業後、違う土地で働く事になっても心は繋がっている、そんな存在であると思います。共に医療科学の一期生として社会に出た友人達が同じ分野や全く違う職種で働いたり、進学して頑張っている事がこれから私の前進の励みになっていくと思います。(200311689)

実は入学したときは、これから始まる大学生活への希望と、田舎にこもらなくてはいけない絶望が混ざった複雑な気持ちもありました。…しかし！実際は楽しいことばかりで、筑波で送った大学生活は忘れられないものとなり、今では筑波に入学することができて本当に良かったと思います。4年間、どうもありがとうございました！(200311690)

一番思い出深いのは、卒業研究です。初めての研究でしたが、そんな私に先生は基本から丁寧に教えてくださり、素晴らしい卒業研究ができたと思います。私たちは一期生ということもあり、カリキュラムも忙しかったのですが、先生方そして同級生には恵まれていたと思います。(200311692)

今振り返ってみても大学生活は本当にあっという間に過ぎたという印象です。しかし、思い返してみると授業だけでなく、部活やアルバイトなどたくさんの思い出があり濃い四年間でした。また、この大学生活では多くの人と出会うことができ、それは自分の財産になったと思います。(200311694)

つくばで過ごした4年間は、レポート、試験、病院実習、卒業研究、国家試験、サークル活動など本当に様々なことがあった。やはり一番思い出されるのは勉強が大変だったことであるが、こうして無事卒業できたのは本当にいい仲間巡りに巡り会い、日々励し合ってやってこられたからだと思う。良き友に囲まれ幸せな4年間だった。(200311695)

大学生は一生の内でも貴重な体験をいっぱいしました。他の学部に比べたら授業や実習も多く、大変なこともあったけど医療科学類でほんとはよかったなと思います。友達の大切さもすごく感じました。本当に楽しかったです。(200311700)

筑波での4年間、自分に足りない部分を知る事ができたと思う。勉強・部活など学生時代に経験したことで自分を再確認し、まわりの人の支えの中で少し自分を大きくできたと思います。(200311704)

今回、第一期生として卒業し感じたことは、皆の将来に対する真剣な姿勢でした。「技師として働く」というだけではなく、様々な進路があり、それぞれに夢を見つけていて大変素敵でした。後輩の方々にも是非そういった夢を見つけてほしいと思います(200311705)

卒業して感じることは、四年間がとても短かったということ、そして楽しいことばかりではないということです。しかし、医療科学は人数が少ない分クラスの人達と近い存在になれると思います。仲間がいてくれたからこそ忙しい毎日を乗り越えることが出来たのだと思います。(200311710)

医療科学類に入学して、4年経ち、卒業に至りました。医療科学類に来て良かったと思う事は、クラスメイトに恵まれた事です。個性豊かで、協力的で、勉強熱心で、4年といわず、もっとみんなで勉強したいくらいです。これからも、元気で各分野で活躍して欲しいと思います。(200311711)

辛く苦しいこともあったはずなのに、4年間を振り返って思うことはあつという間の楽しい日々だったなあというのが実感するところです。いつも一緒だった医療科学のみんなが別々の道に進み始めたことは、不安であるとともに、大きな支え、励みとなっています。医療科学で学べたことを心から誇りに思います(200311712)

卒業を迎え、この4年間を振り返ると、学業やサークル活動、アルバイトなどで様々な経験をし、とても充実した4年間でした。そして、この4年間で多くの出会いがありました。ここで出会ったたくさんの仲間は一生の宝物です。仲間たちの活躍と後輩達の繁栄を祈りつつ、私自身もこの4年間で得たものを糧に、夢に向かって頑張っていこうと思います。』(200311713)

大学の四年間では、新しい学問、新しい人間関係、初めての一人暮らしを経験し、公私ともに充実した時間が送れました。『自立』が求められる生活の中で、新たな自分を発見できたように思います。この四年間で築いた人間関係を大切に新たな一歩を踏み出していきたいです。(200311714)

医療科学は、すごくいいところでした。個性的で最高の仲間たちに出会えました。卒業して、みんないろんなことするために旅立って行くけど、ここで経験したこと、学んだことは決してムダにはならないはず。筑波大学医療科学の一期生として、全員がしっかりと軌跡を残していくんだなと思います。(200311717)

学生時代は何をしても新鮮で楽しかった。もう戻れないのは明らかなので、この経験を糧に頑張っていこうと思う。ありがとうございました。(200512424)